

はれやか

第21号

令和2年12月発行

ケアハウスあかいわ中庭

岩藤医療保健福祉グループ

岩藤医療保険福祉グループ
医療法人 知誠会
社会福祉法人 赤磐中央福祉会

理事長 岩藤 知義



年の瀬を迎えようとしています。今年にはコロナに明け暮れた一年でした。今まで当たり前前に思っていた日常生活が大きく変わりました。人と人が接触して感染するのを避けるため、マスクの着用が義務化され、オンライン化が進みました。リアルなコミュニケーションが取りにくくなったように感じています。

感染拡大を抑えるために中国とヨーロッパで取られたロックダウン（都市封鎖）の措置により大気汚染が改善され、数万人の命が救われたとする研究結果が報告され良い側面もあったようです。しかし、全地球規模で温暖化が急速に進んでおり、我が国では温室効果ガスの排出ゼロの目標実現に向けたガソリン車禁止の方針が表明されました。脱地球を目指すのが如く宇宙開発競争も活発になっていきます。まさに我々は今、歴史的な変換点にいるようです。

年初から続いたコロナ感染症は一時収束したようにも見えましたが、最近では第3波を形成し、過去を上回る感染者数と重傷者数を更新しています。岡山県も例外ではなく、次第に身近に迫ってきた感があります。医療がひっ迫してきました。年齢層も若者中心から、各年齢層に均等な分布となり、六五歳以上の

高齢者の重症化が目立っています。Go to イート Go to トラベルが感染の増加に拍車をかけているのでしよう。

現在コロナは居酒屋クラスターから家庭内感染へと変化してきました。PCR検査も民間の医療機関で可能となり、早期に対応が取れるようになりました。地域医療の重要性がますます明らかになってきました。コロナの特徴として、症状が発生する前、即ち無症状の時に最も強い感染力を持つという点があります。冬は空気が乾燥する為飛沫も飛びやすくなります。換気と加湿が重要です。

感染方式は飛沫感染、エアロゾル感染ですから症状がなくても口を隠す常時マスクが必要です。マスクは下着と同様に必需品となりました。今後は顔の表情にかわるコミュニケーションの工夫が必要となるでしょう。個性的なマスクでファッションを楽しむのも良いと思います。

当然ですが、マスクを外す飲食時の感染が一番リスクが高くなります。扇子会食など洒落たワードもあります。飛沫防止にも、感染対策としてもやはり不織布マスクが最も良いとされています。是非ともマスク会食に習熟しましょう。さらに換気と手洗いの励行と三密を避けることが大切です。

特にこれからの季節、年末年始は移動に注意をして早期収束をはかりたいものです。そして水際作戦を固めて、来年のオリンピックの開催で日本の医療と感染予防のレベルの高さを、ぜひ世界に見てもらいたいと思います。

当院および岩藤グループ内施設は、いずれも感染防止を厳重に実施しております。医療、介護、福祉、不安な時は何なりとご相談ください。

